

演奏ディプロマ要項

2024

LRSM (Licentiate of the Royal Schools of Music)

FRSM (Fellowship of the Royal Schools of Music)

和訳



目次

はじめに	3
ABRSMについて	3
資格認定に関する詳細	3
LRSM 及び FRSM ディプロマの概要	4
この資格について	5
演奏ディプロマ検定	9
一般情報(要項概要)	9
LRSM レベル6 及び FRSM レベル7 ディプロマ要項	10
ユニット 1: 演奏(LRSM and FRSM)	11
ユニット1: 検定準備事項	12
ユニット 2: 演奏の流れと背景(LRSM) 研究とその反映(FRSM)	14
ユニット 2: 演奏の流れと背景(LRSM) トピック	15
ユニット 2: 研究とその反映 (FRSM) トピック	17
ユニット 2: 検定準備事項	19
LRSM 評価と採点	20
評価目標および学習成果	20
評価基準 - ユニット1: 演奏	21
評価基準 - ユニット 2: 演奏の流れと背景	23
FRSM 評価と採点	24
評価目標および学習成果	24
評価基準 - ユニット1: 演奏	25
評価基準 - ユニット2: 研究とその反映	27
採点と評価	28

はじめに

ABRSMについて

ABRSMは、英国王立音楽検定協会(アソシエイテッド・ボード)であり、国際的な音楽教育慈善組織です。私たちの全ての活動の中心には音楽が人々の生活を豊かにするという信条があります。長き伝統に基づき、対面及びオンライン検定、楽譜、レコーディング、アプリとセミナーなどを全世界の生徒や先生たちに供給してきました。ABRSMの検定は明確な目標、一貫して信頼できる評価、そして次の学びにおけるガイドを提供します。

我々は王立音楽院と提携し、長きに渡って音楽において卓越した成果を積み上げてきました。単なる評価機関としての役割だけにとどまらず、世界中の学習者たちが初めて音を奏するときからサポートし、彼らが音楽スキルを身に着け、学習を進められるよう励ます先生たちを支えて来ました。

様々なパートナー、先生たち、そして世界中の人々と共に、人々が音楽の旅路を始める、又は続けるための手助けをするために、私たちは1889年以来ずっと音楽の未来を育てて来たのです。

資格認定に関する詳細

認定範囲

この資格認定に関する詳細には、学習者が次の資格検定を準備する際に役立つ関連情報が掲載されています。

- ABRSM Level 6 演奏ディプロマ (LRSM)
- ABRSM Level 7 演奏ディプロマ (FRSM)

各楽器とレベルごとの課題曲リストは次のリンクをご参照ください。

www.abrsm.org/other-assessments/diplomas/music-performance

要項の有効期限

この要項(シラバス)は2023年11月から特別お知らせがあるまで有効です。

基本的に変更されることはなく、特別な事情がある場合にはシラバスに変更を加えることがありますが、その場合はウェブサイトにて前もってお知らせ致します。

課題曲リストの有効期限

LRSMとFRSMの課題曲リストは、2023年11月から有効であり、定期的に更新する可能性があります。最新の内容は、www.abrsm.org/other-assessments/diplomas/music-performanceにてご参照ください

LRSM 及び FRSM ディプロマの概要

ディプロマ検定の構成

ユニット 1: [演奏](#)

ユニット2 : [LRSM 演奏の流れと背景](#)

[FRSM 研究とその反映](#)

評価

ユニット 1: 演奏 (LRSM と FRSM)

評価対象と範囲

このユニットでは、課題曲リスト及び自由曲から選択した曲で構成されたプログラムの演奏に対し、以下の点を評価します。

- 楽器(又は声楽)のテクニック
- 音楽的な解釈
- コミュニケーション
- 伝達(表現力)

- 45分 (± 10%) (LRSM)
- 55分 (± 10%) (FRSM)

評点

生演奏、オンライン評価

- 演奏曲 30点 (40%)
- 演奏全体の評価 30点 (40%)

60 点満点 (ディプロマ総点の80%)

ユニット 2: 演奏の流れと背景 (LRSM) 研究とその反映 (FRSM)

評価対象と範囲

以下の4つのオプションのうち一つを選び、ユニット1の演奏に関連する筆記提出物、又は口頭発表(プレゼンテーション)を作成したもの

1. 観客に提供する情報
2. 作品又は作品群の詳細な分析
3. 演奏プログラムの構成について
4. 演奏の準備過程

LRSM: 筆記: 2000 英単語 (± 10%) or
口頭: 10 分 (± 10%)

FRSM: 筆記: 3500 英単語 (± 10%) or
口頭: 17 分 (± 10%)

評点

- 筆記: PDF形式の文書ファイルひとつ(必要な場合2つ以上) 又は
- 口頭: プレゼンテーション動画ひとつ

15 点 (ディプロマ総点の20%)

この資格について

資格認定の目的

音楽に対する様々な角度からのアプローチを奨励するにあたって、これらのディプロマはスキル、知識、理解の段階的な成長を通して学びの喜びと達成感を与え、さらには学習者の高度な演奏スキルが正式に認められ、評価されるように設計されています。これらの資格は、特定の学習期間や大学での正式な過程という縛りを伴わず、生涯を通して学べる機会を提供します。

受検対象者

LRSM と FRSM演奏ディプロマは、幅広い音楽家にその道が開かれており、アマチュアかプロかを問わず、自身の日々の演奏経験を反映できるように設計されています。また、学習者が国際的に認められた基準で自身の能力を測ることが出来るようになっています。

- レベル6 – 学士課程の最終学年と同等のレベル
- レベル7 – 修士課程と同等のレベル

ABRSMのディプロマは検定が要求する水準のスキルと理解を有しそれを証明出来れば受検することが出来ます。受検資格の事前取得については、以下の項目でご確認下さい。

学習の道すじ

学習者がディプロマ検定を受けて行けば、課題曲が一層難しくなり、演奏の時間が長くなるほど、必要なスタミナも多くなり、要求される証拠資料の内容も更に複雑になります。

LRSMとFRSMディプロマは音楽演奏レベル4のディプロマであるARSMの上位段階です。この資格はABRSMの二つのグレード検定、対面実技グレード検定とオンライン・パフォーマンスグレード検定より段階的に難易度が上がったものとなります。どちらも、プログラム構成においてより大きな自由度と責任を付与すると同時に、自身のレパートリーを増やしながら演奏テクニックを更に培って行く機会を提供します。ARSM演奏検定の詳細は次のリンクをご参照ください。

www.abrsm.org/other-assessments/diplomas/music-performance

生演奏と筆記課題、又は口頭プレゼンテーションの組み合わせた構成を通して、LRSM と FRSM レベルの学習者は熟練したレベルのミュージシャンシップと評価スキルを披露し、自身の演奏においての様々な判断を裏付ける合理的で一貫性のある証拠資料を提供します。

ABRSM の演奏ディプロマを取得しようとする学習者の個人的な動機に関わらず、各検定は以下のような過程への道を開いてくれます：

- 他機関が提供するより高いレベルの資格取得
- 大学院での学習課程
- 芸術関係業界での就職

ABRSM ディプロマ資格についての詳細は、次のリンク内容をご参照ください。

www.abrsm.org/other-assessments/diplomas

受検資格

受検に年齢制限はありません。LRSMとFRSMどちらも、受検者は受検する楽器のABRSM実技検定グレード8(対面検定又はオンライン・パフォーマンスグレード検定)か、それに準ずる資格、又は適切な専門家としての経験を提示する必要があります(以下参照)。

受検者は、自身の演奏とその関連スキルが、挑戦するディプロマのレベルにふさわしいか確認しなければなりません。各ディプロマの要求に関する詳細は、それぞれの関連ページに記載されております。

ABRSM検定グレード8の代替条件として、以下の機関からの同等水準の資格を認めております。

- Australian Music Examinations Board
- Dublin Institute of Technology Conservatory of Music & Drama
- Guildhall School of Music & Drama
- London College of Music
- Music Teachers' Board
- Royal Conservatory of Music (Canada) (Grade 9)
- Royal Irish Academy of Music
- University of South Africa
- Trinity College London

また、受検する楽器の関連楽器で取得したグレード8の資格も代替条件として認めております。

- ピアノ-ハープシコード-オルガン
- ヴァイオリン-ヴィオラ
- ハープ (ペダル) -ハープ (ノンペダル)
- ソプラノ・サクソフォン-アルト・サクソフォン-テナー・サクソフォン-バリトン・サクソフォン
- トランペット-ホルネット(B♭管、またはE♭管)-フリーゲルホルン
- トロンボーン-バス・トロンボーン
- バリトーン-ユーフォニウム-チューバ
- パーカッション-パーカッション (混合)-楽音パーカッション-ティンパニ-スネアドラム
- 声楽-ミュージカル・シアター

必要に応じて、合格証書の写し、またはその他の証明書類を要求する場合があります。要求された書類が提出されない場合、エントリーは取り消されます。なお、この際受検料の返金は致しかねますのでご了承ください。

APE (Appropriate professional experience) :適切な専門家としての経験

受検者は、自身の適切な専門家としての経験をグレード8の代替条件として提出するように申請することが出来ます。申請方法の詳細は、次のリンクをご参照ください。

www.abrsm.org/other-assessments/diplomas

重要: この代替方法を申請する手続きは、検定の受検申込とは別に行われ、審査に最大6週間の時間を要します。専門家としての経験に対する代替条件認定は、受検者がディプロマの受検を申し込む前にすでに許可が下りていなければなりません。

資格認定規定(英国)

ABRSM の検定は、英国国内において英国資格試験監査機関(Ofqual)、ウェールズ単位・資格枠組み(QW: ウェールズ)、教育課程・試験・評価評議会(CCEA: 北アイルランド)により規定されています。これらは全て RQF に含まれるものです。

資格認定規定の詳細

以下の表は演奏ディプロマの規定タイトル及び資格番号を表しています。

詳細は <https://register.ofqual.gov.uk/>にてご確認ください。

資格番号	資格タイトル	ABRSM タイトル
610/3336/4	ABRSM レベル6 演奏ディプロマ	LRSM
610/3337/6	ABRSM レベル7 演奏ディプロマ	FRSM

*この要項全体を通して、ABRSMタイトルは各ディプロマを指す名称として使用されます。

資格認定規定(それ以外の国)

それ以外の国においてABRSM検定がどのように認定されているかについては、以下のリンクをご参照ください。 www.abrsm.org/more-information/regulation-and-ucas-points

資格認定規模

ディプロマ	指導付学習時間(GLH)	資格準備時間(TQT)	単位
LRSM	108	1800	180
FRSM	134	2250	225

GLH 及び TQT は平均所要時間であり、参考にのみ使うこと。各受検者の実力と経験によって個人差が出る可能性有。

不正受検と不正運営

私たちは音楽力の達成を目指しています。そして、この検定は何千人という人々の音楽学習や指導に役立っているのです。特に高等教育への進学の場合はこれが顕著です。したがって、この資格の価値や公正性は、受検者の技術と知識を測る指標として大変重要なものとなっております。不正行為は、決してあってはならないものであり、重大な事柄なのです。

- **不正受検**とは検定評価、結果や、証書発行過程での妥協的行為を伴う場合を指します。資格授与団体としての名誉や評判を傷つけるような行為もこれに含まれます。
- **不正運営**とは運営上の手続きが著しく規定に反するもので、特にこれが検定結果の公正性を損なう場合を指します。

受検者、受検申込み者は当該シラバス及び、検定規定集、をもとに決められた手続きに従って、受検を行うものとします。不正受検が行われた場合は罰則があります。詳細は英国公式ウェブサイトにてご参照ください。 www.abrsm.org/policies

盗用

ABRSMは、「盗用」を受検者が他人の作品を自分のものとして再利用しようとする試み、と定義します。これは、公表された、又は非公表の作品をそのまま写した事実を認めないまま引用などで使用すること、他人の文章やアイデアの概要を、原作者を認知せずに作成・使用すること、他の受検者と共謀して同じ又は似たような作品を提出することなどが盗用に当てはまります。盗用は、あらゆる種類の資料に適用されます。

コンプライアンス・オフィサー(法令遵守責任者)は、不正受検と不正運営に対する政策に基づいて(www.abrsm.org/more-information/policies)、疑いのある全ての案件を調査し、盗用が認められた場合、受検者は相応のペナルティー又は失格処分を受けることとなります。盗用を指摘された受検者は、それについて抗議し、弁護する権利があります。

違反行為

受検者/受検予定者は、実技検定要項に掲載された検定内容を読み、遵守することが重要です。これらに違反した場合は、ABRSMの裁量にて警告、減点或いは失格となる場合があります。以下は違反行為の例です：

- 自由曲のレパートリーが、レベルに合わない場合
- プログラムの時間が短すぎ或いは長すぎた場合
- 事前の許可を得ていないのに、自由曲の時間が規定の許容時間より長いプログラムを演奏した場合
- 該当するディプロマ課題曲レパートリーの不適切な演奏：指示とは違う楽章の演奏など
- オンライン検定にて、一度に連続で撮影されたものではない、又はその他の方法で編集された動画を提出した場合

上記は一例であり、すべてではありません。これらに対する対応としては

- 書面での警告：主に細かい違反に対して行われます
- 各要素（訳注：課題曲など）の減点：基準を満たさない自由曲の選択のようなより重要な違反に対しては、各項目つき2点からその項目の満点までの範囲において減点が行われることがあります。

-
- 基本的に検定内容が遵守されていない、次のような場合には失格もあり得ます。

- プログラムが極端に短い
- 演奏の動画が編集されている
- 口頭・筆記課題の提出物が受検者の作品ではないと判断される場合
- 口頭・筆記課題の提出物がSNS(ソーシャルメディア)にアップロードされている場合

検定員は違反行為をABRSMに報告し、その裁量と対応がなされます。その為、結果通知が遅れる場合があります。以前同じ違反行為が罰則なしで受け入れられたとしてもそれは先例にはならず、これによるアペールは受け付けません。

受検へのアクセス（特別な配慮の必要な受検者）

ABRSMは、視覚障がい、学習障がい、その他通常受検が困難なすべての受検者が、この検定を受検できるように、ガイドラインを設け努めてまいります。詳細は次のページにてご確認ください。www.abrsm.org/about-our-exams/specific-needs

このガイドライン以外の事例については、ケースバイケースで対応いたします。

日本で受検される場合、日本事務局にまずお問い合わせください。

info@kakehashi-foundation.jp

特別な配慮

受検者が突然の病気や事故、悪阻、或いは検定直前の不慮の不都合な状況に陥った場合には、特別な配慮がなされます。これは、検定員による配点や評価が変わるということではありません。詳しくは次のリンクをご参照ください。www.abrsm.org/more-information/policies

多様性

ABRSMは音楽界においての幅広い多様性、平等性、包含を造りだすことに真剣に向き合っており、我々の検定及び組織全体においてこれらの成果を出すため積極的に努めています。我々の多様性に関する企画は、www.abrsm.org/diversity-inclusionにて確認出来ます。

演奏ディプロマ検定

一般情報(要項概要)

検定規定集

検定の準備をする際の、様々な規定をしっかりと理解することは、重要です。この規定集は、英国公式サイトからダウンロードできます。 www.abrsm.org/about-our-exams/exam-regulations

要項の更新

このシラバスに微修正や明確化などの更新がある場合、ウェブサイトにてお知らせします。
www.abrsm.org/about-our-exams/syllabuses

受検申込み

検定日程、受検料、申込方法については下記のサイトをご覧ください。
www.abrsm.org/how-to-book

受検可能な楽器

LRSM とFRSM ディプロマ検定を受検可能な楽器は以下の通りです。

鍵盤:	ピアノ、ハープシコード、オルガン
弦楽器:	ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ギター、ハープ
木管楽器:	リコーダー、フルート、オーボエ、クラリネット、バスーン(ファゴット)、サクソフォン
金管楽器:	ホルン、トランペット、コルネット、フリューゲルホルン、E♭ホルン、トロンボーン、バストロンボーン、バリトーン、ユーフォニウム、チューバ
パーカッション	
声楽	

関連楽器での受検

楽器によっては、主な楽器のほかに関連する楽器での演奏が可能です。その場合、演奏の大部分は主楽器によって行われること。詳しくはディプロマ課題曲リストをご参照ください。

LRSM レベル6 及び FRSM レベル7 ディプロマ要項

LRSM (Licentiate of the Royal Schools of Music) と FRSM (Fellowship of the Royal Schools of Music) はどちらも演奏中心のディプロマで、ARSM (Level 4)以上の演奏スキルを披露するように設計されています。プログラム構成におけるより大きな自由度と責任が与え、自身の楽器のレパートリーを増やし、更に探究していく機会を提供します。また、自分の演奏テクニックと音楽的な解釈能力を育み、自身の演奏においての様々な判断を裏付ける合理的で一貫性のある証拠資料について学ぶ機会を提供します。

合格した受検者は、自身の名前の後ろに合格したディプロマのタイトルをLRSM 又は FRSM のように表記することが出来ます。

これらの資格は、受検者たちが成し遂げたことについて公式に認められ、更にこれからの学びを手助けするフィードバックを受けさせてくれます。これらは自身の演奏スキルを磨き高めたい学習者にモチベーションと学びの仕組みを提供し、演奏する楽曲の背景や補助的な知識も披露できる機会を与えます。

検定の構成

これらの検定は演奏に必要な背景知識と理解を包括的に評価するように設計されています。演奏者は、楽器をコントロールするテクニック、楽曲の理解と解釈、一定以上の長さのプログラムを観客にしっかり届ける表現力と理解させるコミュニケーション力、プログラム自体の脈絡と演奏状況を把握する力を通して自身のクリエイティブな能力を披露します。受検者は徹底した論理的な批評を持って自分を振り返る機会が与えられ、音楽性において更に機敏になり、続けて成長していくことが出来るようになります。

検定の実際

● LRSM、FRSM 検定はどちらもオンライン検定として行われ、受検者の演奏動画と演奏に対する筆記提出物又は口頭プレゼンテーション動画を検定員が評価します。これらの検定は基本的に「オンデマンド」であり、演奏は受検者が望む日程と場所で録画出来ます。オンライン検定に関する手引きの詳細は英文12ページをご参照ください。

課題内容

LRSM 及びFRSM検定はユニット1と2で構成されています。

LRSM

ユニット1: 演奏 (45分(±10%)) 受検者が選んだプログラムの演奏

- プログラムの最低50%の楽曲はLRSM課題曲リストから選択
そして
- プログラム残り時間は自由曲を選択可 (ARSM 以上の難易度)

ユニット2: 演奏の流れと背景

提示されたトピックのオプションから一つを選び、2000英単語の筆記提出物、又は10分の動画提出物(±10%)を作成し提出

FRSM

ユニット1: 演奏 (55分(±10%)) 受検者が選んだプログラムの演奏

- プログラムの最低50%の楽曲はFRSM課題曲リストから選択
そして
- プログラム残り時間は自由曲を選択可 (LRSM 以上の難易度)

ユニット2: 研究とその反映

提示されたトピックのオプションから一つを選び、3500英単語の筆記提出物、又は17分の動画提出物(±10%)を作成し提出

ユニット 1: 演奏 (LRSM and FRSM)

評価の内容

両ディプロマ検定の演奏ユニットでは、楽器（又は声楽）のテクニック、音楽的な解釈、表現力と伝達力など、演奏において重要となるスキルを一定以上の長さの演奏プログラムを全体を通して披露できる機会が与えられるように設計されています。

評価の基準と配点

評価の点数は、下記のように、二つの要素に振り分けられています。

- 演奏 (30 点)
- 演奏全体の評価 (30 点)

演奏、及び演奏全体の評価

レパートリーの演奏は、演奏ディプロマ検定の核心と言っても過言ではありません。学習者の演奏者としての能力を発揮できるバランスのとれた多様なプログラムを構成し、本当の意味での音楽的な意図を持って聴衆に伝えることは、音楽的な成長において重要な要素です。これによりスタミナも強化され、ひとつの曲から次の曲へと繋げることなど、長時間の音楽プログラムを演奏するために必要なテクニックのコントロール能力を与えます。

合格基準として、受検者は選択した曲のプログラム全体を通して一貫した演奏をこなすことを求められます。演奏者の曲への気持ち、音楽的な描写、音楽的要素の解釈、楽器の演奏に必要なテクニックなどが十分に伝わりやすいレパートリーを選ぶ必要があります。また、伴奏者と演奏する際に必要なアンサンブル能力、安心できる演奏を聴衆に届けるために必要なスタミナなどにも注意しなければなりません。

演奏曲の準備

演奏時間:	LRSM 45分 (± 10%)
	FRSM 55分 (± 10%)

これは最初の音から最後の音まで、演奏の総時間です(演奏前のチューニングは含まれません)。

- 総演奏時間には、曲間の時間を含みます。
- 木管、金管及び声楽の受検者は一度だけ最大4分(LRSM)又は5分(FRSM)の休憩をとることが出来ます(総演奏時間内のみ)。この休憩の間、録画を止めたり、画面を切ったりすることはできません。

プログラムの構成

最低でもプログラムの50%の曲は指定された課題曲リストから選択しなければなりません。残りの時間は適切な難易度の自由曲を選ぶことも出来ますが、これは必須ではありません。受検者が望むなら、プログラム全体の曲を課題曲リストから選ぶことも可能です。

演奏の50%まで自由曲を選べるということは、各受検者が自分が演奏したい曲に対し、可能な限りのクリエイティビティ、自主性、責任感を持って接することが出来、それらを十分に表現するために必要なスキルの幅と熟練度を披露出来る機会を提供するという事です。

もし受検者が総時間の50%以上の自由曲を弾きたいため、課題曲リストからの曲が50%以下になる場合、事前に承認が必要です。詳細はsyllabus@abrsms.ac.uk宛にメールでご相談ください。日本語の支援が必要な場合、日本事務局宛にinfo@kakehashi-foundation.jpまで先にご相談ください。

プログラムの構成についての詳細は、次の項目でご確認ください。

ディプロマの課題曲リストは次のリンク先をご参照ください。

www.abrsms.org/other-assessments/diplomas/music-performance

ユニット1： 検定準備事項

演奏プログラムについて

演奏プログラムは、バランスが取れた多様性のある、以下の 内容を含むものを用意します。

- 多様な雰囲気、調性、テンポ
- 最低でも二つ以上の対照的な時代や様式を持つ曲、楽章、又は大きな作品
- 受検者はLRSM とLRSM 両方のディプロマ検定で自由曲を演奏可能

課題曲リストに特別な指定がない限り、受検者は一作品の全楽章/全曲を演奏します。課題曲リストにあるその他の追加指示は全て従わなければなりません。

LRSM: 自由曲レパートリーは最大50%, ARSM又はそれ以上の難易度

FRSM: 自由曲レパートリーは最大50%, LRSM又はそれ以上の難易度

- 受検者の自作曲・編曲を自由曲として使用することも可能です。(以下の項目参照)
- 標準的な曲を自由曲として選択する場合、ABRSMからの事前承認は行わず、要請は受けません。
- 選択された自由曲の水準に問題があるとみなされた場合、ABRSMはその楽譜を他で入手できないと判断した時など申込者に楽譜の写本を要求することがあり、その場合、検定結果の発表が遅れる可能性があります
- 自由曲の最初のページ(のみ)は、PDFファイルとして演奏動画及び筆記・口頭課題の提出物と同時にアップロードされる必要があります。

自作曲

受検者の自作曲または編曲を自由曲として演奏することが出来ます。評価するのは演奏のみで、曲自体の構成や完成度などについて判断することはありません。しかし、他の自由曲同様、曲の難易度は受検する検定資格の水準であることが必須条件となります。

暗譜について

暗譜での演奏は任意ですが、演奏効果が上がると判断した場合、暗譜をしておくことが望まれます。

伴奏者

伴奏付で出版されているすべての曲はその通りに(伴奏付で)演奏しなければなりません。伴奏は適切な楽器で行いますが、全体を通して受検者がソリストである必要があります。受検者は必要な伴奏者及びアンサンブル要員を集め、合わせる責任があります。録音された伴奏は、原作者が指示した場合を除き、利用不可です。

楽譜、出版について

課題曲リストにある曲の詳細及び作曲・編曲者情報と一致するものであれば、どの出版社の楽譜でも利用可能です。自由曲の楽譜は標準記譜法によって全体が読みやすく記譜されているものを使います。

コピーについて

英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。すべての受検者と申請者は著作権法の範囲内で行動することを求められます。不適切な行為などが判明した場合、検定結果の発表を保留する場合があります。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合にコピーの使用が認められます。(詳しくは www.mpaonline.org.uk をご覧ください。)

観客について

両方の検定において、必須ではありませんが、観客の前で演奏することを推奨します。受検者は観客を招待するかどうか、招待する場合その規模などを考慮して、演奏会場及びユニット2のオプションを決めます。

オンライン検定

検定会場、楽器及び道具

受検者は演奏を動画として撮影し、ABRSM に提出します。動画を撮影する会場は、受検者が選びます。これは演奏が可能で、必要な観客数を収容でき、必要な楽器や道具がそろっている場所ならば特に制限はありません。受検者は検定に必要な場所と道具(撮影道具、譜面台など)を確保する責任があります。

演奏動画の撮影

全ての曲は一度に連続してワンテイクで録画されるべきであり、撮影中の停止や撮影後の編集は一切禁じられています。受検者が18歳未満の場合、録画の過程を18歳以上の大人が責任者(申込者、先生、保護者など)として監督する必要があります。

動画の撮影及び提出の詳細は、公式サイトの手順をご参照ください。

www.abrsm.org/other-assessments/diplomas/music-performance

時間超過

検定員は、受検者が規定時間を超える場合、超過分の演奏を聴かないことがあります。

ユニット 2: 演奏の流れと背景 (LRSM) 研究とその反映 (FRSM)

LRSMとFRSMディプロマ検定におけるこの部分では、受検者に自身の演奏曲に関する背景や前後関係などの脈絡的な理解について説明し、自身の研究結果と、受検の準備過程においてそれらをどう反映したかについて共有する機会を与えるよう設計されています。

LRSMとFRSM ディプロマ検定両方において、受検者は提示された4つのトピックのうち一つを選びます。これらのトピックは、詳細な楽曲分析などの学術的なアプローチ、又はもっと実用的な演奏の準備過程などに焦点を当てるなど、受検者たちが各々の強みを披露できるようになっています。各トピックは次のページで確認出来ます。

評価の内容

ユニット2は、筆記提出物、又は口頭プレゼンテーションの動画になります。これには楽譜のサンプルや、演奏デモンストレーションを含むことが出来ます。提出物には以下に挙げられたトピックの内容に加えて、学んだ内容が自身の選択にどのような影響を及ぼしたかを示す例、自身のアプローチの有効性に対する検証及びその発展過程、今後のアプローチの方向性に影響を与えた特定の見識などを含む必要があります。口頭プレゼンテーションを選ぶ場合、これをユニット1の演奏と同時に撮影する必要はありません。

- 筆記提出文はどの言語で書かれたものでも構いません。英語でない場合、必ず英文翻訳を同時に提出する必要があります。提出するMSワード、パワーポイントなどを含む全ての文書ファイルは、PDF形式でアップロードします。
- 口頭プレゼンテーションはどの言語で行っても構いません。英語でない場合、動画に英語の字幕を必ずつけてください。
- 口頭プレゼンテーションにおいて、パワーポイントなどの補助的な発表資料を使用する場合、これらの資料はPDF形式で口頭プレゼンテーション動画と共にアップロードしてください。

評価の基準

このユニットにおいて、検定員は関連性のある十分な研究に基づいた説得力のある見識、分析能力、筆記・口頭に関わらず自信に満ちた表現でのコミュニケーション、深い考察に基づく徹底した自己分析を証明できる痕跡を探し求めます。詳しい評価基準については、関連ページをご参照ください。

ユニット 2: 演奏の流れと背景 (LRSM) トピック

LRSM の受検者は、以下の4つのトピックのうちひとつだけを選びます。

2000英単語(±10%)の提出文、又は or 10分(±10%)の口頭プレゼンテーションを提出します。

英文23ページにある評価基準をお読みください。

オプション 1: 観客に提供する情報

以下の内容を含む、一般的なコンサートの観客に向けた自身のLRSM 演奏曲に関する概要を提供します。

1. 曲の背景や流れを理解するための情報
2. 曲の構成、様式、特徴などの音楽的な要素と、それらが互いにどういう関係にあるのか説明
3. 観客が曲に接しやすく、引き込まれるように誘導

具体的な内容の一例として、以下のようなものを含みますが、その限りではありません。

- 作曲家の背景情報
- 作曲家の時代及び作風の流れにおけるその作品の位置(例: ベートーヴェンの中期における曲、など)
- 音楽の時代及び様式(スタイル)に関する根拠となる例
- 作品の音楽的な構造や楽式に関する概要
- 楽器/声楽のテクニックに関する注目すべき点
- 特徴と雰囲気

最後の結論において、観客に必要な情報をどれだけ効果的に伝えられたか、そしてこのような見識がどのようにこれからの自身のアプローチに影響するのかについて言及します。

オプション2: プログラムの詳細な分析

自身のLRSMプログラムのうち20分を選び、次のうちの一つの観点から徹底的で詳細な研究を行います。

- A. 背景、流れと分析(作曲家、時代、作品の原点、受けた影響、更に広範囲での音楽的な発展における重要度などを含む)
- B. 演奏の歴史、ディスコグラフィ(作品の献上、初演及び初期公演から現代の演奏まで、演奏の録音を含む記録、言及されるべき重要な演奏家や有名な演奏についての情報などを含む)
- C. 楽器の進化と発展(関連の作曲家と時代、楽器の構造的な発展の影響、楽器の歴史上の重要作品との関係と影響などを含む)

最後の結論において、この研究が自身の演奏者としての練習と演奏に与えた影響と、それらがどのようにこれからの自身のアプローチに影響するのかについて言及します。

オプション3: 演奏プログラム構成について

自身のLRSM 演奏プログラムを総体的に見て、自身の選曲及び演奏順番を決めた理由について徹底的で詳細な説明を行います。

選択できるトピックは以下のようなものを含みますが、その限りではありません。

- プログラム全体を通してのテーマ
- 対照的な音楽の時代と様式(スタイル)の比較
- 研究がどのように自身の音楽的解釈へとつながったか
- 自身の演奏スタイルに合う曲とその理由について
- 難しかった部分(その理由を含む)と解決するために用いた戦略
- 曲や楽章の転換部分の扱い方
- 選んだ曲が演奏会場の環境で演奏されるに適切であるか

最後の結論において、プログラムを準備する過程で得た見識、特にそれらが演奏と演奏態度に与えた影響について言及します。また自身のプログラム自体と、プログラムへの自身のアプローチがどれだけ効果的であったかについても言及する必要があります。

オプション 4: 演奏の準備過程

LRSM 演奏の準備過程について、初期の準備段階から最終演奏までの道すじの全体的な概要を提示します。技術的、音楽的な要求とその難易度について詳しく話し、それらに必要な能力を取得するために自分がどのように準備したのかを具体的に説明します。

選択できるトピックは以下のようなものを含みますが、その限りではありません。

- リサーチと選曲
- 自身が選んだプログラムにおける技術的な難所、及び音楽的な解釈が難しい部分を克服するための戦略を含むプログラムの計画
- 自身のリサーチにおいて得た情報のうち、ディスコグラフィーを含む自身の解釈に影響を与えた情報や資料
- 演奏者としてのコミュニケーションにおける自身のアプローチ方法
- 受検者が学んだ練習曲、出版された楽譜や文献などについて
- 先生の助言を含むプログラムを準備するために用いた自身の練習戦略

最後の結論において、準備過程で手に入れた見識と、特にそれらが演奏と演奏態度に与えた影響について言及します。また自身のアプローチがどれだけ効果的であったか、そして結果についても言及する必要があります。

ユニット 2: 研究とその反映 (FRSM) トピック

FRSM の受検者は、以下の4つのトピックのうちひとつだけを選びます。

3500 英単語(± 10%)の提出文、又は or 17 分(± 10%)の口頭プレゼンテーションを提出します。

英文27ページにある評価基準をお読みください。

オプション 1: 観客に提供する情報

プロフェッショナルな公演会場に集まる観客を対象とし、観客がプログラムの理解を深め、親近感を持つような情報を提供します。相当な量と質の個人的な研究とその反映から引き出した情報を通して、FRSMで演奏する各曲を全て網羅し、観客が作品を全体の演奏、歴史の流れを踏まえて理解し、彼ら自身にとって新しい音楽的な特徴を学び捉えることが出来るものでなければなりません。

選択できるトピックは以下のようなものを含みますが、その限りではありません。

- 作曲家の背景情報
- 作曲家の時代及び作風の流れにおけるその作品の位置(例：ベートーヴェンの中期における曲、など)
- 音楽の時代及び様式(スタイル)に関する根拠となる例証
- 作品の音楽的な構造や楽式に関する概要
- 楽器/声楽のテクニックに関する注目すべき点
- 特徴と雰囲気、そして音楽的な分析(アナリーゼ)

受検者が提示する情報は、演奏曲に対する観客の理解を深め、検証された新しい見識を共有するものである必要があります。最後の結論において、これらの目標をどれだけ効果的に達成できたかについて言及します。

オプション 2: 詳細なプログラムの分析

自身のFRSMプログラムのうち30分を選び、深く探究します。次のうちの一つの観点から徹底的で詳細な分析を示してください。

- A. 楽曲の分析(作曲家、時代、作品の原点、受けた影響、更に広範囲での音楽的な発展における重要度などを含む)
- B. 演奏の歴史、ディスコグラフィ(作品の献上、初演及び初期公演から現代の演奏まで、演奏の録音を含む記録、言及されるべき重要な演奏家や有名な演奏についての情報などを含む)
- C. 楽器の進化と発展の意義(関連の作曲家と時代、楽器の構造的な発展などが新しい調性などへの可能性に与えた影響、楽器の歴史上の重要作品との関係と影響などを含む)

最後の結論において、この研究が自身の演奏者としての練習と演奏に与えた影響と、それらがどのようにこれからのアプローチに影響するかについて言及します。

オプション3: 演奏プログラム構成について

自身のFRSM 演奏プログラムを総体的に見て、自身の選曲及び演奏順番を決めた理由について深く探究します。また、自身の選曲及び演奏順番を決めた理由について徹底的で詳細な説明を行います。

選択できるトピックは以下のようなものを含みますが、その限りではありません。

- プログラム全体を通してのテーマ
- 対照的な音楽の時代と様式(スタイル)の比較、及びこれらが自身の解釈に与えた影響
- 研究がどのように自身の音楽的解釈へとつながったか
- 自身の演奏スタイルや強みに合う一つ以上の曲とその理由、また自身が成長するための挑戦となった曲とその理由について
- 曲や楽章の転換部分の扱い方
- 準備過程を通して新たに得た音楽的な見識
- 選んだ曲が演奏会場の環境で演奏されるに適切であるか

最後の結論において、プログラムを準備する過程で得た見識、特にそれらが演奏と演奏態度に与えた影響について言及します。また自身のプログラム自体と、プログラムへの自身のアプローチがどれだけ効果的であったかについても言及する必要があります。

オプション 4: 演奏の準備過程

FRSM 演奏の準備過程について、初期の準備段階から最終演奏までの道すじの、全体的な概要を提示します。技術的、音楽的な要求とその難易度について詳しく話し、それらに必要な能力を取得するために自分がどのように準備したのかを具体的に説明します。

選択できるトピックは以下のようなものを含みますが、その限りではありません。

- リサーチと選曲
- 自身が選んだプログラムにおける技術的な難所、及び音楽的な解釈が難しい部分を克服するための戦略を含むプログラムの計画
- 自身のリサーチにおいて得た情報のうち、ディスコグラフィーを含む自身の解釈に影響を与えた情報や資料
- 演奏者としてのコミュニケーションにおける自身のアプローチ方法
- 受検者が学んだ練習曲、出版された楽譜や文献などについて
- 先生の助言を含むプログラムを準備するために用いた自身の練習戦略

最後の結論において、準備過程で手に入れた見識と、特にそれらが演奏と演奏態度に与えた影響について言及します。また自身のアプローチがどれだけ効果的であったか、そして結果についても言及する必要があります。

ユニット 2: 検定準備事項

LRSM・FRSMの筆記課題、又は口頭プレゼンテーションの提出(ユニット 2)

無編集の演奏動画(ユニット1)に加えて、筆記課題、又は口頭プレゼンテーション(動画)のうち一つを選んで提出します。受検者は次の点に注意してください。

- 検定の品質保証の為、受検者はすべての提出物には氏名を表記せず、ContactIDのみを記載します。
- 提出されたものは次のレベルのABRSMディプロマ検定には使用できません。参考資料としての使用は可能です。
- ABRSMは適切ではないと判断された提出物の審査を拒否する権利があります。

筆記課題・書面形式

受検者はユニット2の課題をユニット1の演奏動画と同時にアップロードします。翻訳が必要な場合、訳文も共に添付します。

課題は次の形式に従って作成します。

- PCなどで入力し、ファイル拡張子名を.pdfで保存
- 全ページにページ番号を挿入
- 表紙には次の内容を含む：
 - ABRSM Contact ID
 - 楽器
 - 選択したオプションのタイトル
 - 日付
 - 英単語総数(脚注, 参考文献リスト/ディスコグラフィーを除く)
- 参考文献の記述スタイル及び書式は一貫して同じものを使用する

口頭プレゼンテーション形式

受検者はユニット2の口頭プレゼンテーション動画をユニット1の演奏動画と同時にアップロードします。パワーポイントのスライドなど、補助資料があればすべて添付します。また、プレゼンテーションが英語以外で行われた場合、動画には必ず英語の字幕を付けます。

口頭プレゼンテーションは次の形式に従って作成します。

- ユニット1の演奏動画と同じ動画拡張子名で保存
- 撮影中、受検者が始終画面に出演していなければならない
- www.abrsm.org/other-assessments/diplomas/music-performanceにおける撮影と提出に関するガイドに従って撮影および提出
- 口頭プレゼンテーションはワンテイクで撮影する必要はない
- 以下の内容を含む、受検者による口頭での紹介も含める
 - ABRSM Contact ID
 - 楽器
 - 選んだオプションのタイトル
 - 日付
 - 動画の長さ(脚注, 参考文献リスト/ディスコグラフィーを除く)
- 参考文献リスト/ディスコグラフィーを含める

ABRSMは一度提出された課題は返却出来かねますのでご了承ください。提出前にあらかじめ記録用のコピーを作成して保管することをお勧めします。

真正性の宣誓(デklarेशनフォームの作成)

全ての提出物は受検者自身の作品である必要があり、オンライン提出手順の一部として受検者デklarेशनフォームを作成します。

LRSM 評価と採点

評価目標および学習成果

以下の表はLRSM受検者に求められる知識と能力の水準を表したものです。また、この水準に達した受検者が披露できる専門知識の一例も記載されています。

LRSM (RQF レベル 6)

評価目標	学習成果
様々な雰囲気、調性とテンポを持ち、大部分の ARSM水準以上の曲で構成されている、指定された長さのリサイタルプログラムの演奏 40%	<ol style="list-style-type: none">45分の技術的難易度が高いレパートリーで構成されるプログラムを流暢で正確に演奏が出来る成熟したミュージシャンシップスキルとプログラム全体の脈絡を把握し披露できる演奏関連の様々なテクニックと戦略に関する徹底的な知識を表現できる
演奏プログラムの要求に適うように、演奏全体を設計し、表現し、それを維持する 40%	<ol style="list-style-type: none">様々なスタイルのバランスの取れた一定の長さの演奏プログラムを、自信を持って考案し、披露できる演奏の自覚、テクスチャとアンサンブル演奏、成熟した演奏スキルの理解と制御力を披露できる楽譜、観客や共演者、そして演奏状況などとの音楽的な繋がりを披露できる
指定されたリストから選んだトピックに関する筆記課題又は口頭プレゼンテーションの提出物を準備しながら、自身の研究とその反映の結果を説得力を持って提示することにより、演奏の音楽的背景についての知識と理解を証明 20%	<ol style="list-style-type: none">課題と関連する情報を収集、処理、分析する能力を披露できる自己評価や反映など、演奏の選択に影響を与えるさまざまな観点について評価を下せる自主的、そして独創的に、演奏とその流れに関する情報を論理的に組み立てて伝えることが出来る

配点	結果の区分																											
点数は評価内容の項目ごとに、次の表のように割り当てられています。	以下はLRSM検定結果の区分け一覧です。全体合格のために、必ずしも各項目において合格を獲得しなければならないということではありません。																											
<table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>満点</th><th>総点に対する配分</th></tr></thead><tbody><tr><td>演奏曲</td><td>30</td><td>40%</td></tr><tr><td>演奏全体の評価</td><td>30</td><td>40%</td></tr><tr><td>演奏の流れと背景</td><td>15</td><td>20%</td></tr><tr><td>合計</td><td>75</td><td>100%</td></tr></tbody></table>	項目	満点	総点に対する配分	演奏曲	30	40%	演奏全体の評価	30	40%	演奏の流れと背景	15	20%	合計	75	100%	<table border="1"><thead><tr><th>評価の区分</th><th>評点の範囲</th></tr></thead><tbody><tr><td>Distinction (秀)</td><td>68-75</td></tr><tr><td>Merit (優)</td><td>60-67</td></tr><tr><td>Pass (合格)</td><td>50-59</td></tr><tr><td>Below Pass 1 (不合格1)</td><td>37-49</td></tr><tr><td>Below Pass 2 (不合格2)</td><td>25-36</td></tr></tbody></table>	評価の区分	評点の範囲	Distinction (秀)	68-75	Merit (優)	60-67	Pass (合格)	50-59	Below Pass 1 (不合格1)	37-49	Below Pass 2 (不合格2)	25-36
項目	満点	総点に対する配分																										
演奏曲	30	40%																										
演奏全体の評価	30	40%																										
演奏の流れと背景	15	20%																										
合計	75	100%																										
評価の区分	評点の範囲																											
Distinction (秀)	68-75																											
Merit (優)	60-67																											
Pass (合格)	50-59																											
Below Pass 1 (不合格1)	37-49																											
Below Pass 2 (不合格2)	25-36																											

評価基準 - ユニット1: 演奏

	Distinction (秀) 30-27点	Merit (優) 26-24点	Pass (合格) 23-20点
演奏曲	<ul style="list-style-type: none"> 自信を持って演奏 選んだ曲に対する幅広く深い理解を証明する、魅力と説得力がある表現 楽器の音色に対する鋭い認識を持ち、繊細な探求がされている スタイル(様式)に対する洗練された理解を伴う感情豊かで、慣用的な音楽表現と細部の再現 特出したテクニックと音楽性によって支えられた演奏 	<ul style="list-style-type: none"> 良い演奏 選んだ曲に対する徹底した理解を証明する、魅力的な表現 楽器の音色に対する敏感な認識と探求がされている スタイル(様式)に対する良い理解を伴う感情豊かな音楽表現と細部の再現 優れたテクニックと音楽性によって支えられた演奏 	<ul style="list-style-type: none"> 十分な演奏 選んだ曲に対する全般的な理解を証明する、十分な表現 楽器の音色に対するある程度の認識と探求がされている スタイル(様式)に対する理解を伴う一定の音楽表現及び細部の再現 安定したテクニックと音楽性によって支えられた演奏
演奏全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> プログラム全体に渡って強い音楽的な確信と鮮明な伝達力を伴う、自主的で(音楽的な意見が)よく投影された演奏スタイル 確信を持った調和とバランスを伴う、テクスチャとアンサンブルの洗練されたコントロール 演奏状況に対する確信を持った自主的なコントロールと管理 プログラムの非常に効果的な順序とペース作り 確信を持ったスタイルの解釈と表現で、深い音楽的な理解の実証が出来ている 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム全体に渡って音楽的な確信と強い伝達力を伴う、(音楽的な意見が)よく投影された演奏スタイル 効果的な調和とバランスを伴う、テクスチャとアンサンブルの熟練されたコントロール 演奏状況に対する巧みなコントロールと管理 プログラムの効果的な順序とペース作り しっかりしたスタイルの解釈と表現で、十分な音楽的な理解の実証が出来ている 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム全体に渡ってある程度の音楽的な確信と伝達力を伴う、(音楽的な意見が)大部分で投影された演奏スタイル 適切な調和とバランスを伴う、テクスチャとアンサンブルの良いコントロール 演奏状況に対する十分なコントロールと管理 プログラムの良い順序とペース作り スタイルの解釈と表現で、十分な音楽的な理解の実証が出来ている

評価基準 - ユニット 1: 演奏 (続き)

	不合格1 19-15 点	不合格2 14-10 点
演奏曲	<ul style="list-style-type: none"> 不安定な演奏 一貫していない特徴の表現、演奏曲に関する限定的な理解力のみ提示 楽器の音色に対する限定的な認識と探求 限定的な音楽の形成、細部の表現 不安定な技術的、音楽的なコントロール 	<ul style="list-style-type: none"> 基準に満たない演奏 曲の特徴の表現や演奏曲に関する理解を示す証拠が不足 楽器の音色に対する認識と探求が殆どされていない 音楽の形成、細部の表現が殆ど、又は全くない 基準に満たない技術的、音楽的なコントロール
演奏全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> プログラム全体に渡って限定的な音楽的な確信と伝達力を伴う、一貫性のない演奏スタイル 不規則な調和とバランスを伴う、テクスチャとアンサンブルの不安定なコントロール 演奏状況に対する効果のないコントロールと管理 説得力のないプログラムの順序とペース作り 一貫性のないスタイルの解釈と表現で、限定的な音楽的な理解を実証している 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム全体に渡って音楽的な確信と伝達力、音楽的な意見の投影が全く見えない演奏スタイル 調和とバランスが頻繁に崩れ、ないに等しいテクスチャとアンサンブルのコントロール 演奏に対する基準に満たないコントロールと管理 辻褄が合わないプログラムの良い順序とペース作り スタイルの解釈と表現が足りず、音楽的な理解の実証はないに等しい

評価基準 - ユニット 2: 演奏の流れと背景

Distinction (秀) 15-14点	Merit (優) 13-12点	Pass (合格) 11-10点
<ul style="list-style-type: none"> 強い分析力を証明する、曲に対する洗練された感覚の評価 提出物は、広範囲の情報源からの資料がまとめられていて、課題と関連性があり、詳しい研究の痕跡が認められる 提出物の構成が秀でていて、専門用語は全体を通して適切に使用され、結論は自信があって説得力がある 内容が選択したトピックと完全に一致し、説得力がある 自己評価は包括的であり、相当量の個人的な見識、考察、独創的な意見を示す説得力のある証拠が含まれている 	<ul style="list-style-type: none"> 堅実な分析力を証明する、曲に対する明確で詳しい評価 提出物は、様々な情報源からの資料がまとめられていて、課題と関連性がある研究の痕跡が認められる 提出物の構成が効果的で、専門用語は概ね適切に使用され、結論は説得力がある 内容が選択したトピックと概ね一致し、しっかり伝えている 自己評価は徹底的であり、個人的な見識と考察を示す詳しい証拠が含まれている 	<ul style="list-style-type: none"> 分析力を身に着けていることを証明する、曲に対する徹底した評価 提出物は、一定範囲の情報源からの資料がまとめられていて、研究の痕跡が認められる 提出物の構成が明瞭で、専門用語は全般的に適切に使用され、結論は辻褄が合うものである 内容が選択したトピックと全般的に一致し、明確に伝えている 自己評価は十分であり、個人的な見識と考察を示す明確な証拠が含まれている
不合格 1 9-7点	不合格 2 6-5点	
<ul style="list-style-type: none"> 限定的な分析力を証明する、曲に対する説得力のない評価 提出物は、狭い範囲の情報源からの資料がまとめられていて、限定的な研究の痕跡が認められる 提出物は構成が不確かで、専門用語は殆ど不適切に使用され、結論は説得力がない 内容が選択したトピックと不規則に一致し、一部のみ明確に伝えている 自己評価は説得力がなく、個人的な見識と考察を示す限定的な証拠が含まれている 	<ul style="list-style-type: none"> 分析力がないに等しい、曲に対する弱い評価 提出物は、少ない情報源からの資料がまとめられていて、研究の痕跡がないに等しい 提出物は構成がないに等しく、専門用語は殆ど不適切に使用され、結論は辻褄が合わない 内容が選択したトピックと全く一致せず、伝え方も不明確である 自己評価がないに等しく、個人的な見識と考察を示す証拠が殆ど含まれていない 	

FRSM 評価と採点

評価目標および学習成果

以下の表はFRSM受検者に求められる知識と能力の水準を表したものです。また、この水準に達した受検者が披露できる専門知識の一例も記載されています。

FRSM (RQF レベル7)

評価目標	学習成果
<p>様々な雰囲気、調性とテンポを持ち、大部分のLRSM水準以上の曲で構成されている、指定された長さのリサイタルプログラムの演奏</p> <p>40%</p>	<ol style="list-style-type: none"> 55分の技術的難易度が高いレパートリーで構成されるプログラムを優れた感覚、芸術性と独創性をもって演奏が出来る 長時間の演奏全体を通して、成熟したミュージシャンシップスキルとプログラム全体の脈絡を把握しプロフェッショナルな水準の演奏を披露できる 特出した楽器演奏・歌唱スキルを披露し、演奏関連のテクニックと戦略に関する徹底的な知識を表現できる
<p>演奏プログラムの要求に合うように、演奏全体を設計し、表現し、それを維持する</p> <p>40%</p>	<ol style="list-style-type: none"> 楽器や声の持てる技術的・芸術的な可能性を十分に強調出来る、独創性のある一定の長さの演奏プログラムを考案し、滑らかに披露できる 演奏の自覚、テクスチャーとアンサンブル演奏など様々なスタイルやジャンルで要求される演奏スキルの成熟した理解と制御力を披露でき、その過程で自分なりの新しい音楽的な見識を提示することが出来る 楽譜、観客や共演者、そして演奏状況などとの音楽的な繋がりや教官力を披露できる
<p>指定されたリストから選んだトピックに関する筆記課題又は口頭プレゼンテーションの提出物を準備しながら、自身の研究とその反映の結果を、説得力を持って提示することにより、演奏の音楽的背景についての知識と理解を証明</p> <p>20%</p>	<ol style="list-style-type: none"> 資料や情報を論理的に判断し組み合わせるための批判的思考能力と分析力を披露し、自身の結論を理解しやすく説得力のある意見を持って裏付けられる 核心的な結論に至るため、自己評価や反映などを含む演奏の選択に影響を与えるさまざまな観点について批判的な判断が出来る 研究とその反映によって得たものを論理的に組み立てて音楽的な知識と経験が豊かな対象に伝えることが出来る

配点
点数は評価内容の項目ごとに、次の表のように割り当てられています。

項目	満点	総点に対する配分
演奏曲	30	40%
演奏全体の評価	30	40%
研究とその反映	15	20%
合計	75	100%

結果の区分

以下はLRSM検定結果の区分け一覧です。全体合格のために、必ずしも各項目において合格を獲得しなければならないということではありません。

評価の区分	評点の範囲
<i>Distinction (秀)</i>	68-75
<i>Merit (優)</i>	60-67
<i>Pass (合格)</i>	50-59
<i>Below Pass 1 (不合格1)</i>	37-49
<i>Below Pass 2 (不合格2)</i>	25-36

評価基準 - ユニット1: 演奏

	Distinction (秀) 30-27点	Merit (優) 26-24点	Pass (合格) 23-20点
演奏曲	<ul style="list-style-type: none"> プロ公演リサイタルの水準で、非常に熟達した、一貫して魅力的で聞き入りやすい演奏 	<ul style="list-style-type: none"> 熟達した、一貫して魅力的で聞き入りやすい演奏 	<ul style="list-style-type: none"> 全般的に熟達したと見れる演奏
	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色に対する完全な探求と掌握 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色に対する器用で効果的なアプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色に対する良い、効果的なアプローチ
	<ul style="list-style-type: none"> 特出して高い水準の芸術性と表現力を持つ、感情豊かで、慣用的な演奏 	<ul style="list-style-type: none"> 高い水準の芸術性と表現力を持つ、感情豊かで、慣用的な演奏 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術性と表現力を持つ、感情豊かで、慣用的な演奏
	<ul style="list-style-type: none"> 自身の個性と音楽の様式・スタイルに関する深い理解を示すことによる、自主的な態度と鮮明な特徴づけの表現 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の様式・スタイルに関する理解を示すことによる、自信を持った説得力のある表現 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の様式・スタイルに関する良い理解を示すことによる、分かりやすい表現
	<ul style="list-style-type: none"> 特出したテクニックと音楽性のコントロール 	<ul style="list-style-type: none"> 優れたテクニックと音楽性のコントロール 	<ul style="list-style-type: none"> 良いテクニックと音楽性のコントロール
演奏全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> 特出した音楽的な伝達力とプログラム全体に打ち込んでいる姿勢、すなわち強い音楽的な見解を伴う、自主的で説得力がある演奏 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な伝達力とプログラム全体に打ち込んでいる姿勢、すなわち音楽的な見解を伴う、自主性を持った演奏 	<ul style="list-style-type: none"> 程よい音楽的な伝達力とプログラム全体に打ち込んでいる姿勢がみられる、納得の行く演奏
	<ul style="list-style-type: none"> 芸術的な調和とバランスを伴う、テクスチャとアンサンブルの特出したコントロール 	<ul style="list-style-type: none"> 確信を持った調和とバランスを伴う、テクスチャとアンサンブルの洗練されたコントロール 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な調和とバランスを伴う、テクスチャとアンサンブルの熟練されたコントロール
	<ul style="list-style-type: none"> 演奏状況の全ての面において圧倒的なコントロールと管理 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏状況に対する確信を持った自主的なコントロールと管理 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏状況に対する巧みなコントロールと管理
	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの模範的な順序とペース作り 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの非常に効果的な順序とペース作り 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの効果的な順序とペース作り
	<ul style="list-style-type: none"> 特出したスタイルの解釈と表現で、極まった音楽的な理解の実証が出来ている 	<ul style="list-style-type: none"> 確信を持ったスタイルの解釈と表現で、深い音楽的な理解の実証が出来ている 	<ul style="list-style-type: none"> しっかりしたスタイルの解釈と表現で、十分な音楽的な理解の実証が出来ている

評価基準 - ユニット1: 演奏 (続き)

	不合格 1 19-15点	不合格 2 14-10点
演奏曲	<ul style="list-style-type: none"> ● 一部分のみ安定的な演奏 ● 楽器の音色に対する部分的で一貫性のないアプローチ ● 限定的な芸術性と表現力を持つ、間欠的に感情表現があり、慣用的な演奏 ● 間欠的な特徴の表現、演奏曲に関する一貫性のない理解のみ提示 ● 限定的なテクニックと音楽性のコントロール 	<ul style="list-style-type: none"> ● 不安定な演奏 ● 楽器の音色に対する限定的な認識と探求 ● 表現が乏しく音楽的な芸術性に欠ける演奏 ● 曲の特徴の表現が殆どなく、演奏曲に関する理解を示す証拠が限定的 ● 頼りないテクニックと音楽性のコントロール
演奏全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 音楽的な伝達力とプログラム全体への姿勢が限定的な、説得力のない演奏 ● 不安定な調和とバランスを伴う、テクスチャとアンサンブルの部分的なコントロール ● 演奏状況に対する不規則なコントロールと管理 ● プログラムの部分的に効果的な順序とペース作り ● 効果的ではないスタイルの解釈と表現で、音楽的な理解の実証が一部分のみ出来ている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 乏しい音楽的な伝達力とプログラム全体に打ち込んでいるとは見られない演奏 ● 調和とバランスが頻繁に崩れる、テクスチャとアンサンブルの限定的なコントロール ● 演奏状況に対する全く効果のないコントロールと管理 ● プログラムの全く効果のない順序とペース作り ● 限定的なスタイルの解釈と表現を通して音楽的な理解の実証が殆ど出来ていない

評価基準 - ユニット2: 研究とその反映

Distinction (秀) 15-14 点	Merit (優) 13-12 点	Pass (合格) 11-10 点
<ul style="list-style-type: none"> 高い水準の分析力を証明する、曲に対する洗練された感覚の批判的な評価 提出物は、非常に広範囲の情報源からの資料が上手く組み合わせられ、まとめられていて、包括的かつ課題と関連性のある研究の痕跡が認められる 提出物の構成が専門的で、専門用語は全体を通して適切に使用され、結論は自信あって説得力がある 内容が選択したトピックと完全に一致し、自信と説得力がある意見であり、伝達方法は非常に興味を引く魅力的なものである 自己評価が素晴らしく、相当量の個人的な見識、考察、独創的な意見を示す理解しやすく魅力的で明敏な証拠が含まれている 	<ul style="list-style-type: none"> 強い分析力を証明する、曲に対する洞察力のある批判的な評価 提出物は、広範囲の情報源からの資料がまとめられていて、課題と関連性があり、詳しい研究の痕跡が認められる 提出物の構成が秀でていて、専門用語は全般的に適切に使用され、結論は説得力がある 内容が選択したトピックと関連性が高く、説得力があり、伝達方法も興味深いものである 自己評価は徹底的であり、相当量の個人的な見識、考察、独創的な意見を示す細かい証拠が含まれている 	<ul style="list-style-type: none"> 堅実な分析力を証明する、曲に対する徹底した批判的な評価 提出物は、一定範囲の情報源からの資料がまとめられていて、課題と関連性がある研究の痕跡が認められる 提出物の構成が効果的で、専門用語は概ね適切に使用され、結論は辻褃が合うものである 内容が選択したトピックと概ね一致し、辻褃が合っていて、伝達方法も強く効果的である 自己評価は十分であり、個人的な見識と考察を示す明確で詳しい証拠が含まれている
不合格1 9-7 点	不合格2 6-5 点	
<ul style="list-style-type: none"> 限定的な分析力を証明する、曲に対する説得力のない批判的な評価 提出物は、狭い範囲の情報源からの資料がまとめられていて、限定的な研究の痕跡が認められる 提出物は構成が不確かで、専門用語の使用適切度はかろうじて許容範囲であり、結論は概ね説得力がない 内容が選択したトピックと部分的に一致し、部分的に辻褃が合っていて、伝達方法も一部のみ明確である 自己評価は説得力がなく、個人的な見識と考察を示す限定的な証拠が含まれている 	<ul style="list-style-type: none"> 分析力がないに等しい、曲に対する弱い批判的な評価 提出物は、少ない情報源からの資料がまとめられていて、研究の痕跡がないに等しい 提出物は構成が貧弱で、専門用語は殆ど不適切に使用され、結論は説得力がない 内容が選択したトピックとあまり一致せず、意見が明確でなく、内容が伝わりにくい 自己評価がないに等しく、個人的な見識と考察を示す証拠が殆ど含まれていない 	

採点と評価

LRSM または FRSM を取得するために、受検者は以下の点を実行しなければなりません。

- 資格検定に関連する要求を全て遂行する
- 資格検定の全項目において最低合格点以上を獲得する

採点

受検者が提出した資料と演奏は次のページにある採点基準に基づいて評点されます。

評価

検定員の評価は、当日のディプロマ検定演奏のみに基づいて行われます。以前のパフォーマンスは評価の対象とはなりません。

オンライン検定では、一つの動画を評価のためアップロードできるのは一度きりです。同じ動画を同じ、又は違う資格検定の為に再利用することは禁止されています。以前一度アップロードされた動画が再度提出された場合、二度目の動画は不適格とみなされ、その検定は失格になります。

包括的評価について

包括的評価とは、受検者が主要な課題において必要な技術、知識など効果的に使い、示しているかを判断する評価の形式のひとつです。ディプロマ検定では異なるスキル、知識、理解力—理論、表記、楽器のコントロール、聴く力、創造的な解釈力等をまとめて、検定における一定以上の長さのプログラムの演奏に応用することが出来るのです。

結果

全ての受検者は検定の結果を受け取ります、又合格者へは、合格証が送付されます。ABRSMはできるだけ所定のスケジュール(www.abrsm.org/about-our-exams/results-and-certificatesを参照)

に沿って、結果を送付するようにしておりますが、遅れる場合もあります。検定員は結果報告に関してのいかなる行為も行いません、即ち評点用紙(合格者には合格証)は、検定後本部より発行されます。又、結果はエントリーフォームに記載されている受検申込み者に送付され、受検者に責任を持って伝えられます。

ポスト・ノミナル・レターズ

受検者は、合格後、自身の名前の後ろにLRSM又はFRSMの文字を綴ることが出来ます。

アピールとフィードバック

アピール

受検者が予期せぬ結果を受け取った場合は、Result Reviewを要求することが出来ます。これにより検定員からの評価が再検討され、場合によっては、評点の変更もあり得ます。

フィードバック

結果再検討に加えて、結果以外のフィードバック、例えば検定全般や、マークフォームなどについてのフィードバックも歓迎いたします。これにより継続的な検定の改善を目指しております。

フィードバックの期限など詳細はwww.abrsm.org/about-our-exams/results-and-certificates/appeals-and-feedbackをご覧ください。

Copyright © 2023

ABRSM retains the copyright on all its publications, including the specifications. However, candidates and teachers are permitted to copy from this specification for personal use.